



はぎわらよしかず 議員
さんむ21 萩原善和

人口減対策について

問 合併時と直近の市の人口および世帯数、また、直近1年間の出生者と死亡者数について伺います。

答 市民部長 合併時の人口は6万125人、世帯数は2万997世帯です。令和2年4月1日の人口は5万905人、世帯数は2万2413世帯です。令和元年度の出生者数は217人、死亡者数は721人でした。

問 市長が就任して2年半が経過しましたが、これまでの人口減少対策に対する取り組みと成果について伺います。

答 市長 全ての取り組みを人口減少対策、少子化対策につなげようと、海水浴場のブルーフラッグの認証取得、企業立地促進条例の制定、結婚新生活支援制度、三世代同居等支援制度の導入、ゼロカーボンシティの宣言などに

取り組みできました。

短期間で成果を上げるとは難しいと考えますが、市民が誇りを持って住み続けたいと思うまちを築くことが、人口減少対策につながると思います。

問 本市は子育て施策が、非常に充実していると思うが、周知はどのように行っているのか伺います。

答 保健福祉部長 本市では、こども園化の推進、高校生までの医療費の無償化、相談窓口の充実等、子育て世帯の支援の充実を推進しており、ホームページや広報紙により周知を図っています。令和2年2月からは、子育てに必要な情報を一目でチェックできる「子育て



アプリさんむの子」の配信を開始しました。今後ともあらゆる機会を通じて、市内外に周知を図ります。



妊娠・出産・育児の情報が受け取れるアプリです。左側のQRコードを読み取るとダウンロードできます。

して進めていきたいと思っています。

問 現在市長が使用している名刺は、本市の観光地等が掲載されているものです。市の魅力を他市、他県に発信するため、議会も含め、市職員も、このような名刺に変えてはどうか。このような名刺に変えてはどうか。

答 総務部長 知名度向上のため、検討したいと思っています。

松尾公民館および松尾にぎわいの活用状況等について

問 松尾公民館および松尾にぎわい処建設の、経緯について伺います。

答 総務部長 松尾庁舎を解体・撤去するにあたり、新たに地域のにぎわいの拠点となる施設を検討する必要があり、平成23年から松尾地域ににぎわい空間創出研究会を中心に議論を進め、「地域資源の活用、地域コミュニティの場、生き活きと活動する場」を整備することとしました。このコンセプトを基に、松尾公民館、松尾学童クラブおよび直売所、軽食コーナーを有した松尾にぎわい処の複合施設を、平成27年10月に落成しました。

問 松尾公民館の利用状況について伺います。

答 教育部長 利用者数は、平成29年度は1万8587人、令和元年度は2万1080人です。

問 松尾にぎわい処の現在の利用

状況について伺います。

答 教育部長 松尾にぎわい処は、平成30年10月から公営塾の自習室として運用しています。利用者数は、平成30年度は450人、令和元年度は479人です。

問 市商工会から移転要望があるようですが、今後どのように活用していくのか伺います。

答 総務部長 松尾にぎわい処は、松尾地域のにぎわい創出を目的として設置した施設であり、今後も、その観点から検討を進めていきたいと思っています。そのため、市商工会の移転については、難しいものと考えています。

問 松尾にぎわい処条例が制定されているが、利活用の妨げにならないよう改正が必要だと思うがどうですか。

答 市長 松尾にぎわい処条例は、指定管理者による施設の管理や対象事業等を定めています。

利活用を検討する上では、制約される部分があるため、検討する必要があると思います。



にぎわいを創出する活用が検討されている松尾交流センター

個人質問